

みちのく森の楽校だより

この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



オカトラノオ



ヤマユリ

2019年 **7月号**

7月27日(土) 晴れ

里山の植物を使って、草木染！

やっと雨がやみましたね！久しぶりの青空です。

今日の活動は草木染め。里山の植生管理で刈り払ってしまうヨモギを使って、ハンカチを染めました。

ヨモギの刈り取り

里山のいろいろな所に生育しているヨモギ。どんどん増えるので、刈り払う必要があります。

ヨモギは、特有の香りがある、新芽は食用になります。ヨモギ団子、ヨモギの葉の天ぷらなど、これまでもいろいろな活用をしてきましたね。ヨモギは、お茶や、漢方では生薬としても使われる優れたもの。今回は、草木染の染料として使います。



染料づくり



ザルで越して、ヨモギを取り除きます。これが染め液です。

まず、刈り取ったヨモギを、洗って、茎やゴミを取り除きます。

次にお鍋にヨモギとひたひたになるくらいの水を入れて、煮込みます。しばらくするときれいな緑色がでてきます。



模様付け

今日は、木綿のハンカチを使いました。ビー玉や輪ゴムを使って絞り模様を付けたり、割り箸を使って線状の模様を付けたり、各人、工夫しました。

模様ができたら、ヨモギの染め液にハンカチを入れ、30分くらい煮ました。

ヨモギの香りが広がり、心なしか爽やかな気分です。



作品いろいろ

木綿のハンカチは、淡いきれいな緑色に染まりました。

下の写真は、羊毛をいろいろな植物で染めたもの。優しい色に染まっています。

